

# 第6回生駒市総合教育会議 会議録

1 日 時 平成28年2月22日(月) 午前9時～午後3時58分

2 場 所 生駒市役所 大会議室

## 3 協議事項

(1) 教育大綱の策定について

①基本方針について

②基本理念について

(2) その他

## 4 市側出席者

市 長 小 紫 雅 史 副市長 山 本 昇

## 5 教育委員会側出席者

教育長 中 田 好 昭

委 員 (教育長職務代理者) 山 本 吉 延 委 員 飯 島 敏 文

委 員 上 田 信 行 委 員 寺 田 詩 子

委 員 神 澤 創 (午前中のみ出席) 委 員 浦 林 直 子

委 員 坪 井 美 佐 委 員 レイノルズあい

## 6 関係職員及び事務局職員出席者

教育総務部長 峯 島 妙 生涯学習部長 奥 畑 行 宏

こども健康部長 上 野 和 久 教育総務課長 真 銅 宏

教育指導課長 吉 村 茂 学校給食センター所長 奥 田 茂

生涯学習課長 西 野 敦 図書館長 向 田 真理子

スポーツ振興課長 杉 浦 弘 和 教育総務課課長補佐 藤 本 清 夫

教育総務課課長補佐 井 上 博 司 教育指導課課長補佐 吉 川 祐 一

生涯学習課課長補佐 錦 好 見 スポーツ振興課課長補佐 黒 松 裕喜伸

こども課課長補佐 後 藤 治 彦 教育総務課 (書記) 松 井 恵

教育総務課 (受付) 土 井 智 史

## 7 傍聴者 5名

○開会宣告

○協議事項

(1) 教育大綱の策定について

①基本方針について

●子育て・就学前教育

寺田委員：40年間幼児教育に携わってきた中で感じたことは、子育てするお母さん方の表情が毎日違うということである。自分の子育てがこれでいいのかと悩んでいる様子を見ながら日々声をかけていると、初めは園長室で話をすることに抵抗を持っていたお母さんも、だんだんと自分から幼稚園に入って話してくれるようになった。お母さん方には、一番つらい悩みを話せる環境が少ない。しかし、「子育て支援」という看板を構えるとなかなか入りにくいので、幼稚園や保育園の中で相談ができれば一番良い。子育ての悩みを簡単に相談できる場を今以上に充実させてほしい。県の新任研修の中で、こども園にも行く機会がある。その中で一番大事だと感じたのは、保育士と幼稚園教諭の人材確保と質の向上である。年齢に応じた教育をきちんとすることが学校教育につながるからである。4年間の取組の方向性としては、こども園・幼稚園・保育園がそれぞれ役割をきちんと果たせるような、ハード面での役割分担に関する内容が入ってくるかと思う。

上田委員：お母さん方と保育士・幼稚園教諭が子育てについて話し合う場が必要である。4年の間に場を活性化することは、新しい建物を建てなくても、今ある場を活用して工夫できる。親子が共感的な関わり方をしたり、子どもに考えさせる教育ができる関係を築いたりするための場が必要である。

レイノルズ委員：就学前教育について考える前提として、「お母さん」という言い方に違和感を覚える。子育てにはお父さんも関わるものであるので、「保護者」などの言葉に統一したい。一般的に子育てというとお母さんを前提に考えてしまいがちなので、男性の子育て参加を項目の一つに入れるという方法もあるか。

浦林委員：上田委員のご意見のように、支援の場がつながりきれていないのではないかと思う。私自身の活動として、かるがもの部屋やこどもサポートセンターゆうの子育て広場で就園前の親子を対象に悩み事やつぶやきをたくさん聞いてきたが、確かにみんなで悩みを共有する場は少ない。その悩みの声を共有し、いろいろな場所でアドバイスができれば良い。個々に子育てをするのではなく、みんなで子育てを頑張る街であるということが分かるようになれば良いと思う。

飯島委員：私は、最近よく耳にする「マタニティハラスメント」という出産前後の女性への嫌がらせの言葉に違和感を覚える。そもそも出産・子育ては女性だけの仕事ではない。子どもたちはいずれ成人になり社会をリードする存在となるので、子育ては女性や家庭の問題という意識を改善し、社会全体が当事者意識を持って子ども達を育てることが重要である。

以前は、おじいさんやおばあさんの世代を心の拠り所とし、様々な情報を受け継ぎながら子育てが上手く進んでいたが、最近は祖父母と同居していない家庭も多い。また、子育てにおいていろいろなことにお金が掛かる時代になってきている。心の拠り所、確かな情報源、財政基盤の3点において社会が機能を果たせなくなっていることを、家庭や地域に任せず行政が支援して再生するという視点で考えてみてはどうか。

坪井委員：飯島委員のご意見のように、10年前の子育てと今の子育てはまったく違う。孤独に子育てをしている家庭が多く、行政が相談の場をつくっても、インターネットなどの情報を頼りにして、対人的に相談しようと思わない状況にある。相談の場に手が届く方はまだ救われる方で、本当に救ってほしい方は手を伸ばすことさえできない。あすなろなど手が足りないところを行政が支援し、子育てに悩みを持つ方に声をかけられるような社会にしてほしい。

小紫市長：確かに、インターネットで子育てに関するたくさんの情報が手に入る社会であるので、リアルなつながりを求めない方が増えていると思う。坪井委員のご意見は、そこをどのように工夫してリアルな場に相談に来てもらうかというご提案か。

坪井委員：子育てサークルに参加される方も減ってきているので、リアルに手が届きやすい環境づくりをすべきであるということである。

神澤委員：地域の問題は全体に関わることなので子育ての分野に入れるかは難しいが、地域コミュニティシステムを実現するには、新たに場を作るのではなく、今ある場を見直すという基本的なことから考えるべきである。ネットワークキング、つまり、人とのつながりをつくろうという点を一番大切なコンセプトにして、そのためにどうしたら良いかをまず考えてはどうか。

山本委員：ある統計調査で、奈良県は保護者の帰宅時間が全国で一番遅く、子どもが就寝する時間も遅い傾向にあるという結果が出ており、文部科学省が推奨している「早寝早起き朝ごはん」が実践できない状況である。家庭の中に行政が関わるのはなかなか難しい部分があると思うが、気持ちとしては、生駒市で子育てが出来て良かったと思ってほしい。そして、生駒市は子育てがしやすいということを世間に伝えたい。子育てについて考えたとき、人づくりと街づくりは密接な関係にある。子育てしやすく、子育てを楽しくめるような方針が街づくりの視点にもつながると思う。

坪井委員：地域の子育ての明るい兆しとして、後期基本計画にも盛り込まれているように、ボランティア養成講座の修了者が地域で子ども達を協働して育てていくことに期待している。

浦林委員：私も10年ほど前に子育て支援リーダー養成講座を受けた。この講座を受講した方に子育て支援のリーダーとして活躍してもらおうという活動は既に積み重ねられている。

山本委員から県の統計についての意見が出たが、その統計では、父親の帰宅時間が遅いために家で母親が孤独な子育てをしているという統計ではなかったか。実際、就学前にお父さんが子育てに関わることが難しいのが現状であり、お母さんへのサポートが必要であると思う。

レイノルズ委員：今までの現状では女性が主な保護者の立場になっているが、これからはより男性やそれ以外の保護者が必要である。今後伸ばすべき部分として、男性の子育て参加や、おじいさん、おばあさんやご近所の方の子育て参加など、対象を分けて取組を考えるとよいのではないか。

小紫市長：社会や地域で子どもを育てるという考え方は重要である。家庭の中での男性の子育て参加についても考える必要がある。子育てしやすい社会、子育てが楽しい社会になるように、現実に相談できる場や機会をつくりたい。

保育園、幼稚園についての意見はどうか。

中田教育長：これまでの論点として、地域・学校・保護者の三つの切り口があった。子育て支援については意見がまとまってきたが、就学前教育についても何か切り口がほしい。4月1日の組織改編で幼稚園・保育園が教育委員会の管轄に入ることもあり、市長も特に力を入れている就学前教育について、より議論を深めていただきたい。

上田委員：就学前教育では、小学校の前倒しで何となく教育を行うのではなく、幼稚園・保育園の間に新しいことにチャレンジし自分の可能性を形にするための教育を受けてほしい。小学校に行くとき与えられる教育になるので、就学前には徹底的に遊んでチャレンジや体験をして、小学校で創造的な学びを実施する基盤をつくりたい。

浦林委員：保護者の声としては、幼稚園ではよく遊ばせていただいている一方で、もう少し学ばせてほしいというイメージがある。

寺田委員：幼稚園では遊びの大切さを保護者の方に伝えている。遊びを通じた科学や数学などの様々な発見を写真に撮って、次の日に掲示して保護者の方にPRしている。このようにして、子ども達がこの時期にしか出来ない教育をより訴えていかなければならない。また、様々なご支援をいただき、プロの音楽や体育も取り入れている。しかし、浦林委員のご意見のように、幼稚園は遊んでばかりというイメージがあるので、職員の質を向上し、子ども達の学びに気付きPRできる教員を育てる必要があると

感じている。

上田委員：実践を可視化することは大事である。単なる記録でなく、保護者との対話のための記録は明日の保育につながる。先生方が子ども達の発見を可視化して、それを基に保護者を含め全員で考えるという感覚が良い。遊びは学びの中に溢れている。従来の学校教育型の学びが勉強で、それ以外は遊びであるということをお大綱で大きく書いていく必要があると思う。

飯島委員：かつては、遊びは意図的に提供するものではなく、子ども達は当たり前で遊んで様々なことを学んでいたが、最近では子どもだけで遊ぶのを見かけなくなった。遊びの中で学習することは多い。生駒は自然豊かな土地であり、四季の変化を感じられる環境であるので、例えば生き物に触れ、この虫は逃げる、指に止まるというようなことを知ることができる。これらは直接学問の役には立たないが、ユニークな発想を生み出す素になり、学校教育や行政が与えられるものではない。各自治体の教育大綱見ると、自治体名がないとどこのものかわからないような一般的な内容の大綱もあるが、生駒市の大綱ではこの土地にしかないものをアピールし、その活用方法を描くものにしたい。

小紫市長：基本方針のキーワードや具体的な取組の方向性には、生駒らしい特色や他の自治体にはない取組を盛り込みたい。

遊びが学びにつながるということをいかに保護者に見せるか。それを通じて新しい学びをどう取り入れるかにまで議論が及べば素晴らしい。

中田教育長：現場では質の向上と可視化を図っている。今後は公立と私立が連携するなどの具体的な情報共有が必要である。また、現在も行っている取組の可視化についても、保護者や地域に向けてより積極的に行うことが必要であると思う。

山本委員：遊びは非常に大事で、まさに学びそのものだと思う。かつて小1プロブレムが生じたときに、設定保育・自由保育という色分けで語られたことがあった。子ども達を自由に遊ばせるには、指導者に次の展開へ生かす力量がないと難しく、ただ遊んだままで終わってしまい、小学校に入学したときに落ち着いて椅子に座れない、自分の名前も書けないということが起こる。この点は大きな枠組みとしては必要かと思うが、学校教育の目標を設定する時に教育委員会内でもう少し議論できていれば、より具体的にこの場で提案できたかと反省している。

大綱に具体的施策として就学前教育を盛り込むと考えれば、幼保一元化・一体化の名のもとに、同じ教育を受けた上で義務教育をスタートさせたい。生駒市全体として、こども園・幼稚園・保育所をどう整理統合するかが課題である。子育て三法案の中にこども園制度が含まれていたが、民主党の当初の施策はすべての園のこども園化だった。結果的に従

来の幼稚園制度を残してこども園制度を設立する法案が通ったが、それには私立幼稚園を残したいという背景があった。生駒市においても、少なくとも公立の幼保関係の整理については、一定の方針を早期に定める必要がある。さらにその方針を大綱に盛り込むかどうかも検討すべきである。

上田委員：設定保育と自由保育の間にはガイド保育がある。就学前教育では、放りっぱなしもきちんとし過ぎるのもいけないので、状況と対話するガイド保育が必要である。可視化されたものを振り返って、次にどうすれば学びにつながるかというガイドをしなければならない。

遊びと学びは別々のものではない。生駒市がこれを何か別の言葉で表現して、それが生涯を通して必要なものであるということが打ち出せば良い。

小紫市長：いただいたご意見を基に、遊びを通して学びにいかに関導するか、そのための指導者の研修などをどこまで具体的に大綱に入れるか、可視化して保護者や地域の方と議論するプロセスなどについて、改めて整理する。

## ●学校教育

小紫市長：学校教育については、前回の会議に提出した素案の10方針の内の3つが当てはまるが、素案の枠に捉われずにご意見をいただきたい。

レイノルズ委員：素案の基本方針1「これからの社会を生き抜き、活躍できる人材を育てる」という点については、大綱でぜひこの方向性を出したい。私の修正案では「21世紀型スキル」という表現に変えた。就学前教育にもあったように、好奇心や探究心も大事であるが、その上で創造力や問題発見解決力を身に付けてほしいと思うので、引き続きここを重点的に考えてほしい。

上田委員：今は個人を育てる教育が注目されているが、他者と協働して共同体で学ぶスキルは自信につながる。これからは問題を多面的に捉え、だれも考えたことのないことを考え出す力を身に付けてほしい。

浦林委員：レイノルズ委員の意見にも共感するが、やはり確かな学力は必要である。テストや成績や入試がないという学校教育であれば今の教育観で良いが、公立の学校にはいろいろな学力や環境のお子さんがいる中で必要な学力は最低限保障しなければならないので、あまり学力向上がおろそかになってはいけないと思う。

神澤委員：同じ学校教育のカリキュラムの中でも、工夫して面白く教える先生もいる。どう教えるか、どう伝えるかが重要である。新人教育や教育者の質向上に力を入れ、教員をしっかりと育てる生駒市を打ち出してはどうか。

上田委員：先生が教育観や学習観をしっかり持っているのと、本当に力が付く。

山本委員：実際には、中学校の教員は入試を通すことを最大の使命とする教員が多い。アクティブラーニングなど様々なことが打ち出されているが、やはり生徒を泣かせて卒業させたくないため、中学校の教員は入試にシビアになって、それだけで終わってしまっているという現状もある。そのようにして高校に合格しても真の学力が身につけていない場合が多いというのは大人も分かっているのだが、なかなか対応が難しい。世の中で活躍しようと思えば、考える力、課題を見つける力が必要であり、汎用的能力が求められる。結論だけを伝える授業と、授業をきっかけにして考えさせる授業とでは違うので、指導方法を高めることは大切である。

寺田委員：底辺ばかりを考えてしまって、自分のことを嫌いな子が多い。できることに自信を持たせる教育と人の素晴らしさが見える教育をすれば、いじめも少なくなるのではないか。そのような心の教育も大綱に入れてほしい。

飯島委員：センター試験制度が導入されて以降、学校教育の在り方が変わった。入試が、いかに学力の高い大学に入るか、いかにブランド大学に進める高校に入るかという悪い競争になり、序列化された尺度でしか教育を見られなくなっている。偏差値の高い低いで勝ち負けが決まるのではなく、

何をどのように学んだのかという個性で判断されるようになるのが、2020年の大学入試改革である。

何を教えるかは指導要領で決まっているが、教員がいかにか教えるか、個々の子ども達がいかに学ぶかが大事である。子どもによって最適な教え方は違うため、それを提供するために先生が日々努力していることをアピールすべきである。その上で「21世紀型学力」などのこれから身に付けさせるべきものを重点施策で強くアピールするのがふさわしい。

浦林委員：山本委員のお話では、中学校には入試を重視する先生がいるとのことであるが、実際の保護者の声としては、学校は入試対策をしてくれない、塾や民間の方がデータを多く持っているという声が多い。ゆとり教育や総合学習を取り入れた反動で教科書が厚く大きくなっている。大綱の方向性として、理想も良いと思うが、生駒市の教育大綱を基にして過ごした4年後の子どもの学力を問われたときに、確かな学力と21世紀型スキルの両方が大事であると思う。

神澤委員：確かな学力と21世紀型スキルを分けて考えるから話が難しくなってしまう。塾の方が成績を上げてくれるというのは良く聞く話であるが、だからあえて、大綱では理想に懐疑した、それこそ生駒市が日本で一番といえるような内容にしたい。

坪井委員：日々子どもと接する中で、生駒市の子どもは高い教育水準と規範意識の両方を兼ね備えている子が多い。全員の教育レベルが上がればいじめも少なくなるのではないか。山本委員のご意見のように、「全国トップレベル」や「日本一」という他者と比較した表現はしないが個々の目標は日本一で良いという意見に賛成する。飯島委員のご意見のように、生駒市の大綱である限り、生駒市とわかる内容を取り入れたい。例えば、すべての学生が生駒山に登るといような分かりやすい文言でも良いと思う。

神澤委員：1点2点を争うのは子どもなのか、大人なのか。子どもが自分で学力を上げたいと考えれば、自分で塾に行こうとする。個々の意見を聞ける生駒市になれば良い。

山本委員：高校入試の進路相談に関して、確かに保護者から見れば塾の方がたくさん緻密なデータを持っていると感じると思うが、これには経過がある。かつては、大手2社の模擬テストの平均点と各中学校の調査書を見れば、進学できる高校がほぼ確実に予想できていた。つまり点数だけで判断し適性を見ない進路相談になっていたため、文部科学省から業者テスト追放の指示が出た。このような経過があり、今は学校より塾の方が精密なデータを持っている。

ゆとり教育を批判する声もあるが、当時言われていたことは間違っていないと思う。確かな学力とは、課題解決能力を含めた学力である。基礎



基本はもちろん大切であるが、結果として何をできるようになったかが重要である。他者と協働し、コミュニケーションも取れ、与えられた課題に対して解決の方針を立てられるという力が重視されるべきである。最近では「確かな学力」という言葉が一人歩きしているので、何か生駒らしい別の言葉で表現できれば良い。

小紫市長：レイノルズ委員のご意見にあったプレゼンテーション能力や上田委員のご意見にあった他者を巻き込む力・コラボレーション能力が響いた。大綱はこのように具体的な言葉で表現したい。

教育観については、いかに教えるかではなく、いかに学ぶかという点を重視し、そのための教育者を育てるところが基本方針2の中心になるか。「21世紀型能力」を身に付けるという柱を中心に、いろいろな切り口での力を育てたい。基本方針2の方向としては、21世紀型の学力とそれを支える教育者の育成を軸にしたい。

## ●生涯学習

レイノルズ委員：寿大学のような高齢者の方の学びを深める取組を引き続き進めてほしい。

また、各ステージに合わせた学びの提供も重要である。教育・遊び・学びがいかにか効果があるかということ、大人が自ら学ぶことにより共有できる。さらに、男性が子育てに参加し仕事以外でも社会コミュニティにもっと関わる機会を増やしたい。これは共同的活動にもつながると思う。学校教育を終えた後、生涯にわたり各ステージに合わせた教育を提供したい。

上田委員：学びにはインプットのイメージが強いが、アウトプット、つまり他者へ表現して伝えるのも学びである。自分の経験が人に影響を与え役に立つ感覚がよりモチベーションを上げることにつながる。それが一生涯続くと、良い循環を生むと思う。生涯にわたって共に学びたいという意識があれば、いくら年を重ねても社会の役に立てる。そのように循環するために、生涯学習が果たす役割は大きい。

神澤委員：学校教育だけが学びの場ではないので、学校での学びが終わり枠組みが外れても、地域コミュニティで学びの幅が広がる。体験を軸にした学びや、身体のことなど自分のことを大事にする教育があれば良い。

小紫市長：生涯学習は一つの基本方針でありながらも、全体に関わる内容である。

山本委員：どの基本方針に入れるかが問題である。子どもの心の教育は、学校教育はもちろん生涯教育にも関わる。

小紫市長：多様性の話や、それと連動して思いやりの心を培う教育が大きな論点になる。これをひとつの方針をして建てるか、基本方針1～3に入れるかも含めてご意見をいただきたい。

山本委員：先ほど学力の問題から教員の資質向上が議論になったが、キャリア教育もしっかり取り組むべきである。ICT教育についても、学校教育の時代からベースを作るべきである。

生涯学習の視点に戻る。文部科学省は、生涯学習を学校・家庭・地域と並ぶ第4の学びの場としている。私が中学1年生のころ、趣味のアマチュア無線を通して、年齢など関係なく大人と一緒に行動する機会があった。これは意図的な教育の場ではないが、共通の部分を軸にして学びは成立するという実例である。生駒市の特徴あるものとして、共通の趣味を通して、年齢を超えた学びの場を提供できると面白い。

小紫市長：例えば、茶道は生駒市のキーワードである。レイノルズ委員のご意見のように学びの場として提供し、自己実現のきっかけとしたい。

上田委員：多世代という縦軸と多様性という横軸が混じることが面白い。その観点が大綱にも入るか。

坪井委員：先ほど意見を出した市民全員が山に登るというのには、他市の実例がある。山登りなら、子どもと高齢者の歩調が揃い、助け合うことができる

かもしれない。また、寄り添えるご近所づきあいが広がる可能性もある。多世代の交流ができるのが趣味とスポーツである。スポーツは人により得意不得意があるが、登山であれば一緒に楽しめる。生駒の経済も活性化すると思うので、生駒山の市民登山はぜひ実現してほしい。

中田教育長：生涯学習のもう一つの視点である、市民の誰でもが学び続けるという視点については、スポーツ・文化・歴史など、身近なところに題材がある。子ども達が社会に羽ばたいた後、いずれは生駒に帰ってきてほしいという願いもあり、やはり郷土愛を育みたい。

また、生駒市では特に読書活動が盛んなので、豊かな教養を持って生涯にわたり学び続けてほしい。これは他市に誇れる一つの財産である。その切り口も大綱に入れていただきたい。

小紫市長：生駒に帰ってきたいという気持ちを持ってもらうことは重要である。山登りや図書など様々な切り口がある。

寺田委員：学校・幼稚園・保育園では地域ボランティアの方が活躍されている。大人と子供が散歩をしたり餅つきをしたり、子ども達にいろいろな経験を与えていただいております、こうして地域の方々に触れ合う機会が広がっている、その部分も大綱に入れてほしい。しかし、仕事を退職してから地域に帰るのに勇気が必要な方もいる。特に男性は地域コミュニティの中に入りにくいと思うので、その点の配慮もお願いしたい。

小紫市長：インプットとアウトプットの循環が寺田委員のご意見の中にある。学校のように自然と循環できる場をいかにつくっていくかが課題である。

レイノルズ委員：文化・芸術・スポーツ・趣味には人の裏側が見える。これらはその人自身を深める活動であるので、生涯学習のくくりの上で入れてほしい。大綱の体系として提示いただいた案では、基本方針1「子育て・就学前教育」、基本方針2「学校教育」、基本方針3「生涯学習」というように年代に沿った区切り方が出来ている。「4その他」として、心の教育や教育環境という柱を考えていたが、これらは既に今までの話の中に含まれているので、思い切って方針は3つに絞っても良いと思う。

小紫市長：基本方針3の生涯学習についてのご意見では、ライフステージに合わせた生涯教育、生涯にわたり学び続けるアウトプットの循環、第4の学びの場という視点が面白いと感じた。具体的には、スポーツ・文化・歴史の大切さを伝え、地元に戻ってきたいと思える街づくりとして、多世代交流、子育てを通じた地域での交流を盛り込みたい。

●その他

小紫市長：基本方針4の扱いをどうするかも課題である。方針の数を増やし過ぎるのもよくないので、どの分野にも共通する部分を基本方針4とするか、レイノルズ委員のご意見のように、3つの基本方針に絞る方向が良いかなど、意見をいただきたい。

飯島委員：共通する部分を、他の1～3の基本方針と同じようにカテゴリーとして示さなくても良いと思う。

すべての分野に関わるものに何が当たるか。例えば、図書館は学校図書館や読書活動に関わっている。単純に本を読むだけでなく、感想を共有して人とのつながりが芽生えてくるようなものとして、読書を推進すると良いと思う。

小紫市長：全体を通した土台についてのご意見は、基本理念について考えるときに、改めて議論をお願いする。

基本方針を整理するに当たり、参考に山口県の大綱を見ていただきたい。山口県の大綱には基本方針が5つあり、施策の進行方向にそれぞれ具体的な取組が示されている。この枠の中に生駒らしい取組を入れるというイメージで良いか。

上田委員：飯島委員のご意見のように、重点とするものを分かりやすく示したい。生涯学習も近年改革されてきており、全国の大学が図書館と連携して情報を発信し、学びの場を活性化している。このように今ある財産の使い方の発想を転換すると面白いことができるのではないか。

小紫市長：そのようなこともぜひやっていきたい。

山本委員：委員として、市民に大綱について問われたときに、理念や目標をすらすらと伝えたい。つまり、大綱は抽象的な表現ではなく、分かりやすく整理されたものにしたい。委員が覚えやすいということは市民にも伝えやすいということである。

文言の整理の仕方として、基本方針1「子育て・就学前教育」の語尾は「街づくり」、基本方針2「学校教育」は「人づくり」、基本方針3「生涯学習」は「環境・場づくり」というように、言葉に規則性を持たせてはどうか。例えば、「子育てを楽しめる街づくり」、「世の中で活躍できる人づくり」、「生涯を通して学べる環境づくり」などである。方針なので語尾は体言止めせず、「～を進めます」などとしても良いか。4つ目の基本方針は、「日本一に挑戦する」が良いかと思う。実際に日本一になることは難しいが、チャレンジすることが大切である。私が教員のころは、日本学生科学賞の受彰を目指して指導していた。他にもロボカップやレゴなど、年齢を超えて挑戦できる対象はたくさんある。そういうものに挑戦することも一つの視点になると思う。周囲の応援があれば励みになるので、支援制度づくりも必要である。

小紫市長：飯島委員のご意見のように、基本方針4で全体を完成させるような方法もある。

坪井委員：基本方針4で生駒らしさを出したい。生駒にある奈良先端科学技術大学院大学は全国でも珍しい。学校教育と大学院大学の連携を深めてはどうか。また、学力向上のために学習塾と協力するなど、「協創」がキーワードとして入ると良い。

飯島委員：他市の大綱を見ると、ページ数を増やして内容を盛り込むほど個性がなくなっていくように思う。できるだけ一言で、生駒市の大綱がどのようなものを共有できるフレーズでまとめると良い。また、生駒市の個性を表現するには、環境をアピールすると良い。心を育てるという面でも生駒は恵まれている。

小紫市長：自然の豊かさや市民力の高さが生駒の魅力である。

中田教育長：当初は、生駒市独自のエッジを利かしたいという議論であった。基本方針4については、市民に生駒市はここが他市とは違うという部分を示すべきである。内容を現実的に検証したいので、具体的なテーマがあればご意見をいただきたい。

上田委員：学ぶことが好きで生涯を通して学び続けたいという意欲を持った、いろいろなことが好きな人がたくさんいるような賑わいがほしい。具体的施策を考えるとときに、戻って来られる街にするための軸になるものが必要である。

小紫市長：「日本一」という山本委員のご意見のようなことを基本方針4に入れるか。後ほど基本理念を議論する中で、もう一度基本方針4について考えたい。当初は基本方針4に多様性や思いやりを盛り込むことを考えていたが、多様性の内容は基本方針2に入ってくると思うし、心の問題やひきこもり・ニートの問題は基本方針3に入れても良い。午後からは、基本方針4と基本理念について議論したい。

午前11時57分暫時休憩

《休憩》

午後2時32分再開

小紫市長：午前の会議に引き続き、基本方針4の取扱いについてご意見をいただきたい。

山本委員：基本方針3までの内容は、午前中の議論で認識し合えた。基本方針1「子育て・就学前教育」、基本方針2「学校教育」、基本方針3「生涯学習」は、よく目にする分け方である。このタイトルを含めて、基本方針4に

も生駒らしさが出ると良い。日本一にこだわるつもりはなく、一番必要なのは意欲とチャレンジ精神である。前向きな姿勢が見えるような事業があれば、世の中で活躍できる人づくりにもつながる。

小紫市長：生駒らしさをどういう形で表すか。山本委員のご意見にあった、「子育てを楽しめる街づくり」、「世の中で活躍できる人づくり」、「生涯を通して学べる環境づくり」というタイトルは一つの面白い打ちだしである。生駒らしさどのように出すかについて、ご意見をいただきたい。

中田教育長：ワークショップの議論が頭から離れない。就学前から常に学んでいるのが生駒である。ここで独自性を出し、「学び続けるいこまびと」という色付けができるのではないか。

## ② 基本理念について

小紫市長：基本理念の考え方についてご意見をいただきたい。生駒らしい言葉で基本理念を表現したい。

上田委員：日々の生活に学びは溢れている。生駒はそれを常に意識しているということ共感・共有できれば良い。コミュニティの中で協働して、自分ばかりに注意を向けずに、やりたいことに意識が向くような機会が提供できれば良いと思う。方針を言葉にするならば、「LOVE子育て」、「LOVE CHALLENGE」、「LOVE LEARNING」のように「～が好き」ということをアピールするのはどうか。協働によって可能性が実現できる場を多様な人に提供できるような施策を盛り込みたい。

小紫市長：ワークショップに参加された委員から、そこでの議論を踏まえての意見はないか。

坪井委員：2回のワークショップに出席し、「いこまびと」という単語が心に残った。前回の会議で、山本委員が村を育てる学力についてお話された内容は、どの地方自治体でも起こっている。生駒は帰って来られる街づくりをすると考えたときに、重要なのは生駒を育てる人づくりであると思う。

山本委員：教育の目的を考えると2つの側面があり、1つは個人にとって教育を受ける目的は幸せの追求であること、もうひとつは社会的要求である。市民として自己実現しながら、社会を形成する人として活躍できるような基本理念としたい。

小紫市長：人を育てる、幸せを実現するということの土台として、学びの喜びがある。知識のアウトプットが学びたいというインプットにつながって、人としての幸せになる。基本理念としてそのような要素を盛り込みたい。

浦林委員：完成した教育大綱が市民一人一人に生きていと実感するために、広く共有されていくことが大事である。教育は人類の未来を導く希望の光である。地方自治体として教育を考える視点に立った時、一人一人どのステージにおいても学びは下から支えられ広く行き渡るべきものである。だれもが学び成長する喜びを感じられ、人との関わりの中で生きる力を得る生駒市を目指したい。また、ワークショップで出ていた「自立・自律、協働・共同」という合言葉があり、そこに「人をつくる教育のまち・生駒」を宣言し、広く市民の方と共有していければ良い。

寺田委員：基本理念の案として教育長が出した「戻ってきたくなる街」に関連して、どんどこまつりでの経験がある。毎年どんどこまつりに園児が参加して盆踊りをしているが、ある教諭から「どうしてまつりに参加しないといけないのか」と問われたことがあり、私は「子ども達が帰ってきたくなる生駒にするための思い出を作るためである」と答えた。生駒で人を育てるということについていろいろ考えた結果、これかと思った。

小紫市長：やはり、素晴らしい人を輩出するだけでなく、戻ってきてほしいと思う。

飯島委員：教育大綱に書かれていることが、子ども達にも理解できる分かりやすい形で共有されることが望ましい。

例年、教育委員会で「学校教育の目標」を定め、それを基に各学校の教育目標を定めているが、その関係の中に教育大綱がどのように位置付くか。子ども達に大綱が馴染んでいることが必要ではないか。

レイノルズ委員：皆さんに出していただいたキーワードを集めて理念になる言葉がつかれないかと考えた。基本理念は、教育を受けるすべての人に分かりやすい表現が良いと思う。自分自身が幸せでないとなにに対する意欲も出ないため、「幸せ」というのもキーワードのひとつになるか。「幸せな人とまちをつくる」「共に育つ教育」などは、エッジが効いたとは言えないが、分かりやすいか。日本で一番教育委員が多い武雄市は、「組む」というおそらく日本で一番短い理念を掲げている。エッジは効いているが、若干分かりにくいと感じる。一方で、下関市の「夢への挑戦 生き抜く力 胸に誇りと志 ～ともに学び とともに育み 未来（あす）を創る 下関の教育～」のように、いろいろなことを網羅している理念もある。生駒市としてオンリーワンをつくりたい気持ちはありながら、皆さんに共感してもらうためには、「幸せを作る」、「いこまびと」のようにシンプルな表現が良いと思う。

小紫市長：基本理念については次回も引き続き協議したい。既に皆様から要素は出しているため、一度事務局で素案をまとめる。

4つの基本方針についても、事務局で整理して次回に提出する。各基本方針の下に生駒らしい取組を出せるか。いじめやひきこもり、規範意識の問題、生涯学習、多様性の問題については、基本方針1～3に入れ込む方向で整理する。新しいものにチャレンジするという意見も出たが、これは一つの基本方針とできるか。具体的な取組を整理できるなら方針にするが、それが難しければ基本方針1～3に入れる形でまとめる。

中田教育長：次回に向けた素案の作成に当たり、確認をお願いします。市民の皆様に分かりやすい大綱にするため、資料2の体系案のように、活字を避けてイメージの箇条書き程度で頭出しし、各計画・施策で具体性を出すという素案で良いか。あるいは、山口県の大綱のように、4年間の取組の方向性の下に注釈として具体的な取組を表記するのが良いかを整理したい。

小紫市長：取組をたくさん列記するのは好ましくないと考えている。取組の方向性の中で書ききれない内容があれば、各方針に対して一つずつ生駒らしい例を書くなどの方法もある。基本理念で生駒らしさを出すとなると、武雄市のようなインパクトのあるものにしないと難しい。具体的な取組では生駒らしさが出せるか。

山本委員：前回までの会議でアクションプランという話題があった。アクションプ



ランを作る前提であれば、大事なキーワードを捨てるためにも大綱はシンプルにまとめるのが良い。他市の大綱でも、たくさん書いてある事例は少ない。

小紫市長：山口県の大綱では、具体的取組や注釈のようなものでまとめてある。生駒市の大綱も同様にして、主な取組をアクションプランで説明するという方法もある。

上田委員：基本理念として、例えば「遊べ」とするのはどうか。今までの教育は枠組みを作って提供していたが、遊びを考えることで学びを知るという視点を持つと面白い。勇気が必要なことだが、遊びという言葉が持つものを考えてくださいという鋭い問いを投げかけるのはどうか。

小紫市長：マニフェストでも楽しいまちづくりを掲げているので、それとつながる部分もあるか。

坪井委員：それでは、「生きろ」はどうか。0歳から100歳までの教育を考えると、学ぶことは生きることである。地域・学校・家庭の学びをすべて含めて、生きることにつながるのではないか。

飯島委員：「遊べ」という基本理念は確かに気を引くが、大綱はいろいろな価値観を持った方が目にするので、具体的に何をやるかを打ち出せなければ誤解を生む危険もある。教育は非常に多義的で難しく、ニーズも多い。そもそも条件違う子どもたちにとって、学校教育で何を提供すれば十分か、最低限これだけは必要という基準を一つには決められない。そのような中で「遊べ」という理念は魅力的であると同時に誤解を招く可能性もある。最終的には市長の判断ではあるが、私としては無難なところで、普通に考えればよいのではないかと思う。生駒市で重視したいことを3つの基本方針に入れ、その中でも一番重要なところが工夫して記述されれば一番良い。できるだけ全体像が見渡せるボリュームでまとめてほしい。構成としては、最も重視するものは何かということが基本理念として示され、それが3つの柱でどのように実現するか説明するのが良い。

浦林委員：上田委員と坪井委員の提案されたタイトルのインパクトはすごい。それをアレンジして、「遊べ、生きろ、学ぼう」はどうか。

レイノルズ委員：口調と順番を少し変えて、「遊ぼう、学ぼう、生きよう」はどうか。こういった指針は、ある程度話題にならないと自分のこととして考えないので、ショック療法には賛成である。確かにリスクはあるが、リスクを負ってまで大綱をアピールしようとする市の姿勢を見せるのも一つの方法である。

坪井委員：言葉ではなく、ビジュアルで示すのも良いか。例えば、ワークショップの結果を参考に「生駒×あなた＝∞」や「学ぶ×生きる＝いこまびと」なども良い。

上田委員：EXILEが所属する芸能事務所LDHはLove, Dream, Ha

ppinessの略であるが、このように伝えたいものを直球で表す方法もある。例えば英語の「Play」は良い言葉で、日本語の「演奏する・演じる」などのパフォーマンス的な意味を持つ。日本語の「遊ぶ」も、本来の語源としては素晴らしい意味を持つ。もう一度、言葉を再定義する作業は面白いと思う。ポスターをつくってイメージを可視化するのも戦略的には面白い。

山本委員：やはり「遊べ」は少し厳しいか。大学生などに考えさせるテーマとしては面白い。言葉で長々と記述しても、生駒らしくはないしインパクトもないので、考え方としては良いと思う。「遊べ、生きろ、学ぼう」や「遊ぼう、学ぼう、生きよう」というご意見も出ていたが、「Play, Study, Live」の頭文字を取って「生駒PSL」などもアピール感がある。生駒の教育大綱は変わったことを言っているというアピールはあっても良いかと思う。

上田委員：プレイフルラーニングという言葉がある。もともと学びは楽しくプレイにあふれている。この大綱の策定のように、新しいものをつくることは最高に楽しい。これが学ぶ姿である。教育を変えようというチャレンジそのもの楽しさを見出し、街をつくることは楽しいということをも市民にも考えてみてほしい。

小紫市長：単に大切なものをつなげるだけでなく、インパクトがある基本理念を打ち出す方向で考える。英語を上手く使うか、分かりやすく日本語で表現するかも検討する。

具体的な取組を記載するかについての議論に戻る。基本理念をキャッチーでインパクトがあるものにする場合、選択肢としては3つある。大綱では具体的には書かずにアクションプランで具体的な形を示す方法、各項目に1つ程度の具体例を書く方法、具体的な取組までは書かないが注釈や柱書程度を書く方法である。ご意見をいただきたい。

寺田委員：様々な人が大綱を目にするので、短く簡単な言葉で表現してしまうと多様な考え方に対応するために細かい説明が必要になる。教育に関心がない方も、お子さんがいない方も、教育に目を向けていただくための分かりやすい言葉も入れていただきたい。

小紫市長：基本的な方針や4年間の取組の方向性についての注釈があった方が良いというご意見である。では、大綱でキャッチーな基本理念、注釈を加えた大まかな基本方針と取組の方向性を示し、アクションプランで具体的に何をするかを示すということで良いか。

浦林委員：大綱で方向性しか示さないのであれば、改めてアクションプランを別途策定する必要があるということか。

小紫市長：策定済の主な計画等一覧として、学校教育の目標、生涯学習推進基本方針、社会教育基本方針及び重点目標、スポーツ振興基本計画、子ども読

書活動推進計画、子ども・子育て支援事業計画、通学路交通安全プログラムなどがある。大綱を踏まえて、それぞれの計画が大綱に沿った具体的な計画になっているかを、教育委員会で確認し、追加・修正してほしい。必要であれば新しい計画を策定することになるかもしれないが、基本的には、今ある各分野の計画等を整理していただきたい。

浦林委員：では反対に、大綱で具体的な内容を盛り込んだ場合、各計画との整合性を考えるときは大綱の方が優先されるということか。

小紫市長：大綱では特に進めてほしいことを1つずつ入れる程度なので、現在ある各計画と矛盾はしないと思うが、大綱の中身は各計画に入れ込んでほしい。

浦林委員：すべての分野の専門性を持っているわけではないので、基本の方向性くらいしか示すことができないと思う。

中田教育長：大綱で示すのはあくまでも方向性で、それを具体的にしていくのは各計画・施策である。策定後も、PDC Aサイクルの中で検証する機会がある。大綱はすべてを網羅する大きな括りとして認識していただきたい。

上田委員：4年間で大綱の成果がどのような形で出るか。例えば、学校教育の分野ではテクノロジーの導入をどう考えるかなど、何か焦点を1つに絞って様子を見るのはどうか。生涯学習の分野では、本を借りるという従来の図書館から発展して新しいイメージができないかという再発明を考えてみると良いと思う。生駒にはたくさんの良いものがあるが、それを再発見・再発明することを考えるべきである。今まで受け継いできた伝統と最先端をつなげて生駒らしい改革をしたい。材料はたくさんあるので、4年間で分かりやすい形で実現できるものをテーマにしたい。大綱がエンジンの役割を果たして、大きな理念のもとに何か変化が見えると良い。

小紫市長：初めの段階では大綱には具体的な取組を入れずに、アクションプランで具体的に何を進めるかを位置付けていただきたい。大綱作成後も、市民の方にご意見をいただいたり、総合教育会議で進行管理したりしながら改善していく予定である。

レイノルズ委員：基本方針と各方針に対する取組の方向性までを大綱に落とし込むということか。

小紫市長：4年間の取組の方向性までは大綱で定める。それに加えて、生駒らしい取組を1つずつくらい入れられたら良いとは考えているが、具体的なアクションプランや各施策は教育委員会で調整していただきたい。

レイノルズ委員：本日の議論で出された意見から、各基本方針に対して3つ程度の方向性を絞っていただき、次回の会議で再確認するということが良いか。

小紫市長：今回の議論を基に、基本理念、基本方針、取組の方向性、注釈を整理し、素案という形でお示しする。

(2) その他

総合教育会議のスケジュールについて、教育総務課、真銅課長から説明  
(質疑) なし

○閉会宣告

午後 3 時 5 8 分閉会